



# USB 大容量記憶装置への仮想マシンのエク スポート

バージョン 5.0

2013/08/12

## 目次

このガイドについて .....	3
<b>Synchronizerを使用した仮想マシンのエクスポート .....</b>	<b>3</b>
仮想マシンイメージの割り当て .....	3
<b>USBマストレージデバイスを使用したEngineのインストール .....</b>	<b>9</b>
USBインストーラーの作成 .....	9
USBインストーラーを使用したEngineのインストール .....	12

Copyright © 2013 Citrix All Rights Reserved.

バージョン : 2.1

Citrix, Inc.

851 West Cypress Creek Road

Fort Lauderdale, FL 33309

United States of America

このドキュメントは現状有姿のまま提供されます。Citrix Inc.は、このドキュメントの内容に関し、商品性および特定目的適合性についての黙示保証を含むが、それに限定することなく、いかなる保証も行わないものとします。このドキュメントには、技術的またはその他の観点で不正確な記述、あるいは印字エラーが含まれている可能性があります。Citrix Inc.は、このドキュメントに含まれている情報を予告なく随時変更する権利を留保します。このドキュメントおよびこのドキュメントに記載されているソフトウェアは、Citrix, Inc.およびそのライセンス付与者の機密情報であり、Citrix, Inc.によるライセンス許諾に基づいて提供されます。

Citrix Systems, Inc.、Citrix ロゴ、Citrix XenClient は、米国およびその他の国における Citrix Systems, Inc.の商標です。このドキュメントに記載されているその他のすべての製品またはサービスは、該当する各社の商標または登録商標です。

Citrix Systems, Inc.は、このドキュメントで使用されているすべての商標を承認しています。Linux は Linus Torvalds の登録商標で、Ubuntu は Canonical Ltd.の登録商標です。Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。すべての商標は、該当する各社の財産です。

## このガイドについて

---

このドキュメントでは、XenClient Engine のインストール方法と、USB 大容量記憶装置デバイスを使用して VM（仮想マシン）をインポートする方法について説明しています。仮想マシンは、あらゆるプラットフォームにインストールできます。

-  Citrixの集中管理アプリケーション（XenClient Synchronizer）を使用して、まず仮想マシンを[エクスポート](#)します。次に、エクスポートされた仮想マシンを、USBインストーラーを使用するか、またはEngineを使用してインポートします。

このドキュメントは、次のセクションで構成されています。

-  [仮想マシンのエクスポート](#)
-  Engineを含む最新のISOファイルの [ダウンロード](#)
-  [USBインストーラーの作成](#)
-  [USBメモリスティックの使用によるXenClient Enterprise Engineのインストール](#)

## Synchronizerを使用した仮想マシンのエクスポート

---

Synchronizer を使用すると、仮想マシンイメージの VHD ファイルをエクスポートできます。これらは、USB ストレージメディアを使用して Engine にインポートできます。このプロセスは、サイズの大きな VHD ファイルの転送を容易にするため、ネットワークの帯域幅を節約できます。仮想マシンのエクスポートでは、次の点を考慮してください。

- 仮想マシンは、サイズが 2GB 未満のチャンクでエクスポートされます。これは、USB スティックのデフォルトのフォーマットが FAT32 で、FAT32 でフォーマットされたパーティションに入るファイルの最大サイズが 2GB であるからです。
- 新しくエクスポートが実行されて、USB メモリスティックが更新されない限り、エクスポート後に仮想マシンに変更を追加すると、Engine が追加のバージョンをダウンロードします。

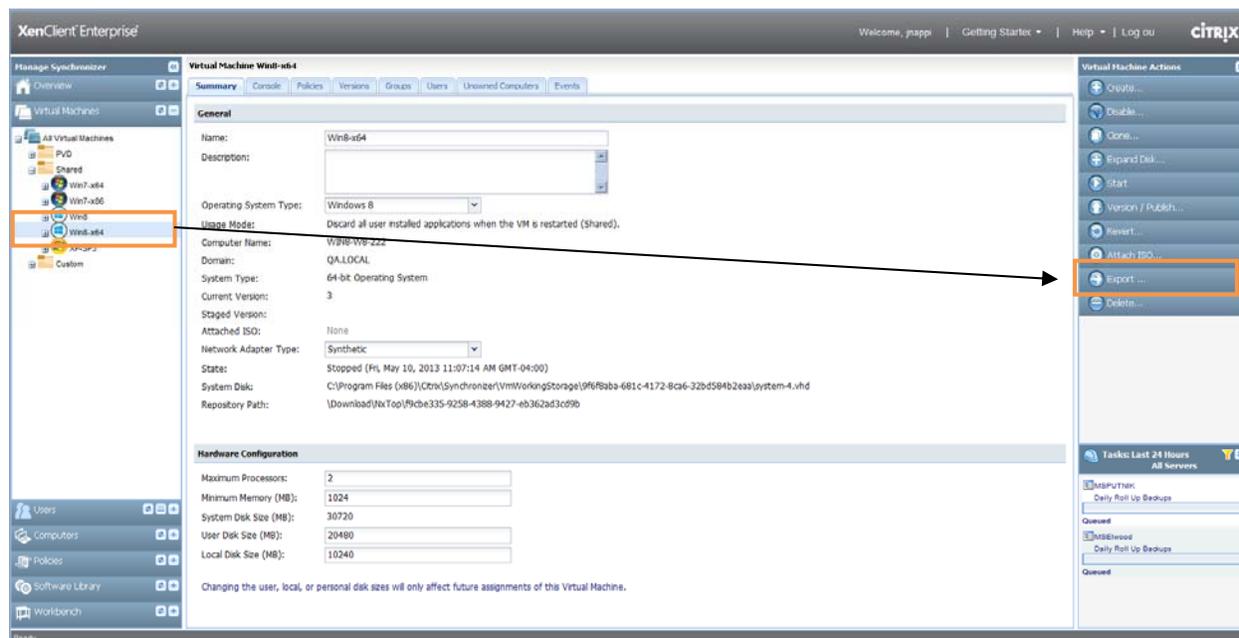
## 仮想マシンイメージの割り当て

---

USB ストレージから Engine に VHD ファイルをインポートする方法は、仮想マシンがシステムに存在しない場合にのみ使用できます。

-  管理者によって仮想マシンが割り当てられ、ユーザーが 2 日以内にプラットフォームの Engine から **【更新のチェック】** を実行しない場合、インポートされたファイルは削除されます。これにより、使用されないファイルがディスクスペースを消費することを防止します。

この方法は、Synchronizer からエクスポートされたイメージからパーソナル仮想マシンを Engine に作成する場合は使用できません。通常、仮想マシンイメージが割り当てられると、すぐに Engine は Synchronizer から仮想マシンイメージをダウンロードしようとし、Engine は、インポートが完了すると、自動的にダウンロードタスクをクリーンアップします。



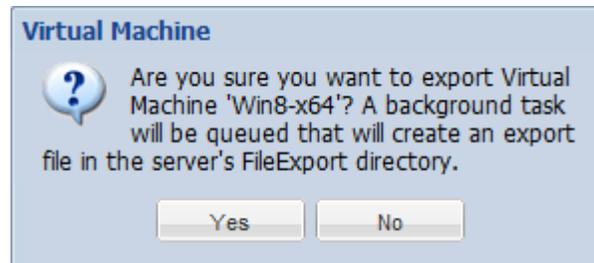
仮想マシンをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. Synchronizer で、仮想マシンバナーを展開して、すべての仮想マシンのリストを表示します。



仮想マシンは、[共有] または [カスタム] に分類されています。

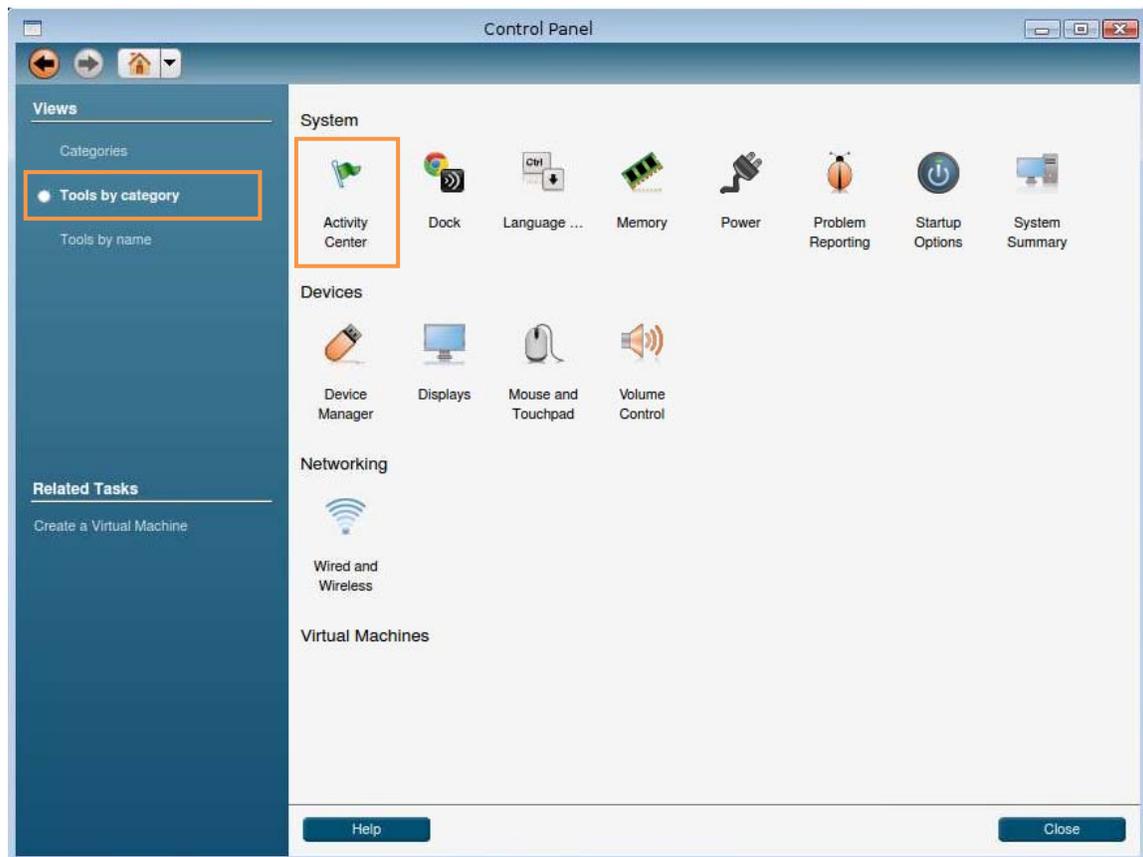
2. エクスポートする仮想マシンを選択します。
3. [Export Virtual Machine] アクションをクリックします。確認ダイアログが表示されます。いったん仮想マシンがエクスポートされると、1つまたは複数のエクスポートファイルが FileExport ディレクトリに作成されます（具体的には、VHD ファイルは複数の.ZIP ファイルに分割されて、Synchronizer\FileExport ディレクトリにエクスポートされます）。



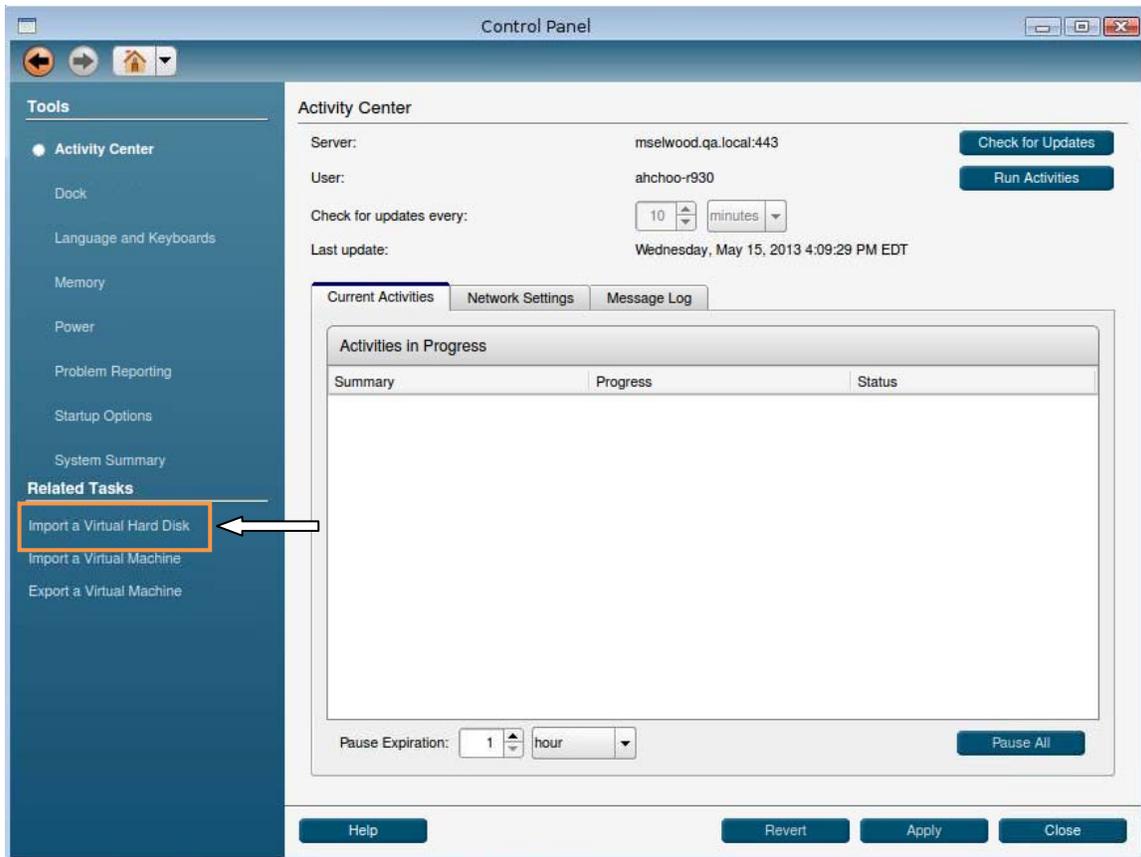
これにより、VHD ファイルを仮想マシンイメージにエクスポートするバックグラウンドタスクが開始されます。このタスクは、Synchronizer UI の右下のタスクウィンドウに表示されます。

エクスポートタスクが完了すると、VHD ファイルは複数に分割された zip ファイルにエクスポートされます。ファイル名は、Synchronizer での仮想マシンイメージの名前に基づいています。

4. エクスポートされたファイルを USB 大容量記憶装置デバイスにコピーします。エクスポートされたファイルが収まるように、十分な空きスペースのある記憶域デバイスを使用してください。NTFS と FAT32 の両方のファイルシステムをサポートしています。エクスポートされた仮想マシンイメージ用に新しいフォルダを作成し、複数に分割された zip ファイルをすべてそのフォルダにコピーします。このプロセスは、数分間かかることがあります。
5. Engine を実行しているコンピューターに USB メディアを接続します。コンピューターですでに仮想マシンが実行されている場合は、USB ストレージデバイスを取り付ける前に、必ず Engine のドック画面を手前に表示してください（通常は、デフォルトのホットキーを使用できません。ランチャー画面を表示するには Ctrl+下矢印キー、仮想マシンを表示するには Ctrl+上矢印キーを押します）。USB 記憶域デバイスを取り付けたときに仮想マシンが手前に表示されていると、USB 記憶域デバイスが仮想マシンに割り当てられます。通常は、USB 記憶域デバイスを取り付けたときにこのようになるのが望ましい状態ですが、USB ストレージから仮想マシンイメージをインポートする場合は、パススルーせずに、Engine によってディスクがマウントされる必要があります。
6. Engine で、コントロールパネルにアクセスし、**[ツール (カテゴリ)] ビュー**を選択し、**[アクティビティセンターコントロールパネル]** アイコンをクリックします。



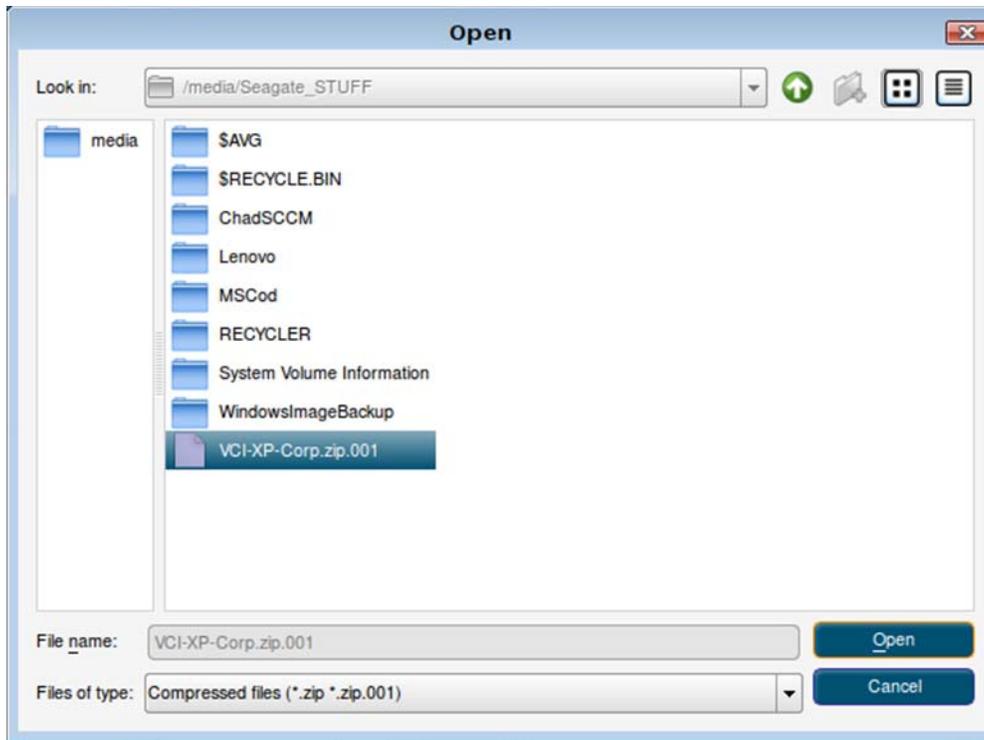
7. アクティビティセンターコントロールパネルで、**[仮想ハードディスクのインポート]** リンクをクリックします。



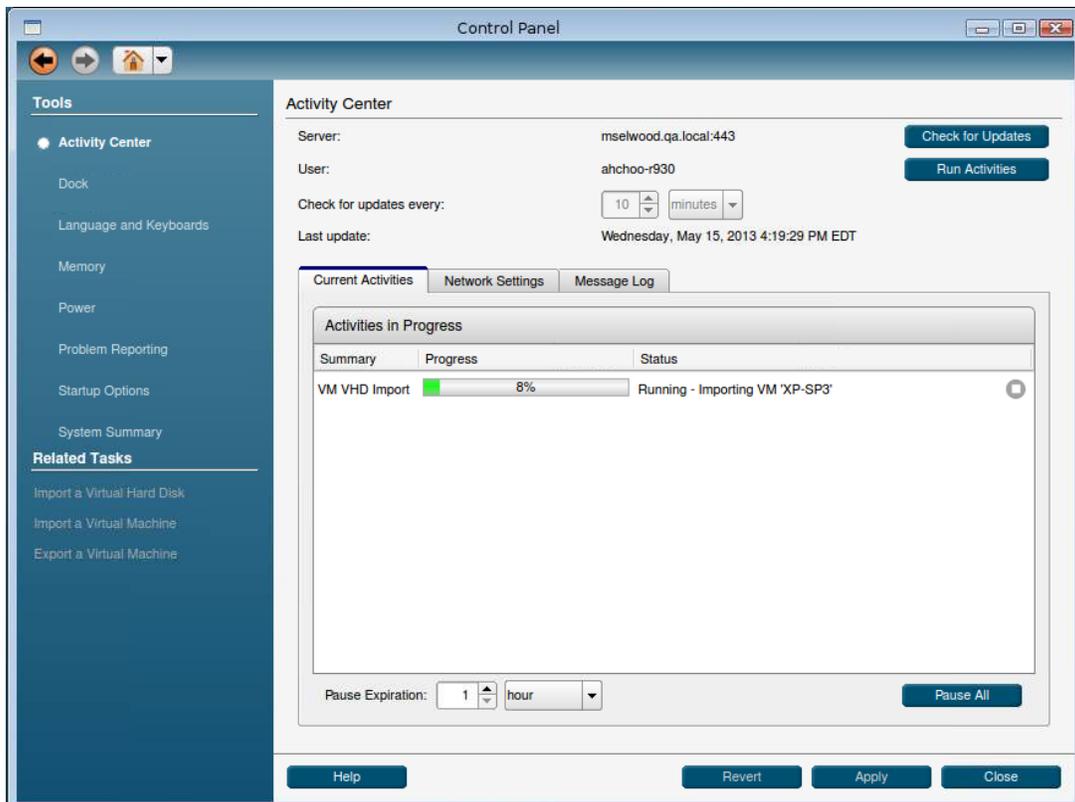
8. これにより、新しいウィンドウがポップアップ表示されます。このウィンドウでは、Synchronizer からエクスポートされたファイルの場所を参照できます。ローカルインポートが完了すると、インポートされたファイルが Engine によって確認され、通常の NxPrep プロセスに進んで、更新がインストールされます。複数に分割された zip ファイルは、最初のファイルのみが参照ウィンドウに表示されることに注意してください。



まだ仮想マシンが割り当てられていない場合、ファイルはローカルに 2 日間保存されません。インポートされた仮想マシンは、割り当てが終わらないとドック画面に仮想マシンメダルが表示されません。また、割り当てが終わらないと NxPrep も発生しません。エクスポートが発生した後に仮想マシンが公開されている場合、Engine はエクスポート完了後に作成された新しいバージョンがあれば、そのバージョンをダウンロードします。



9. ファイルを選択した後、【開く】をクリックします。アクティビティセンターコントロールパネルに進捗が表示されます。



## USBマストレージデバイスを使用したEngineのインストール

---

このセクションでは、Engine のインストールデバイスとして USB スティックを設定する方法を説明します。この方法を使用して Engine をインストールするには、少なくとも 2GB の USB スティックが必要です。また、このセクションの手順を使用するには、Citrix 社の Web サイトから UNetbootin ソフトウェアをダウンロードする必要があります。

 Engine をコンピューターにインストールすると、ネイティブのオペレーティングシステムやデータが削除されることがあります。インストールする前に、保存しておく必要のあるデータをコンピューターからバックアップしておいてください。

1. Engine のインストール ISO ファイルをダウンロードします。

 場合によっては、MD5 チェックサムを検証して、ISO ファイルの有効性を確認する必要があります。MD5 ファイルの計算と比較に使用できるフリーウェアのツールがいくつかあります（例: <http://download.cnet.com/MD5-Checksum-Calculator/3000-2092-4-10964258.html>）。

2. UNetbootin を使用して、USB インストーラーを作成します（フリーウェアまたはシェアウェアには、この用途に使用できるユーティリティがいくつかあります）。以下に手順を説明します。

## USB インストーラーの作成

---

まず、最新の Engine ISO と UNetbootin を Citrix 社のダウンロードポータル ([www.mycitrix.com](http://www.mycitrix.com)) からダウンロードします。

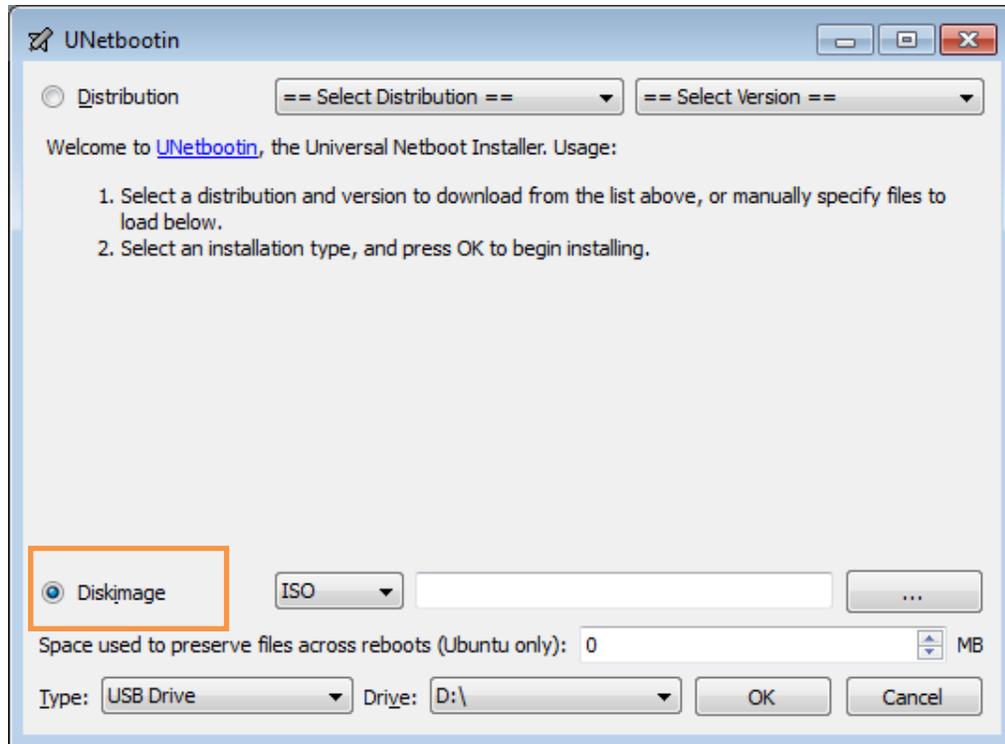
 別の場所から UNetbootin 配布ファイル入手した場合は、バージョン 549 以降であることを確認してください。

 ダウンロードページにアクセスするには、サイトで登録を済ませる必要があります。

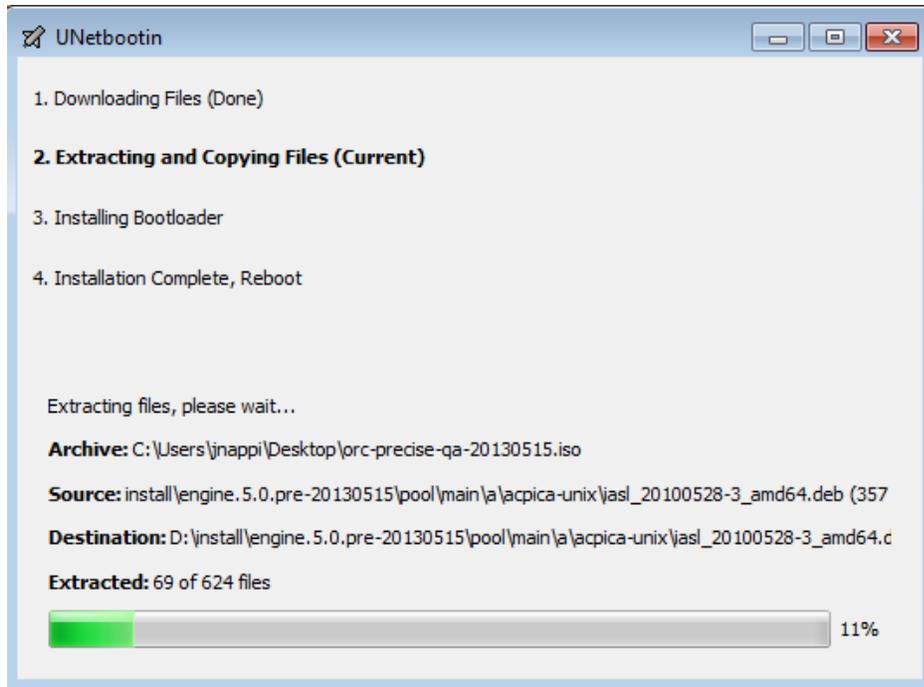
ISO と UNetbootin のダウンロードが完了すると、USB インストーラーの作成プロセスを開始できます。

USB インストーラーを作成するには、次の手順に従います。

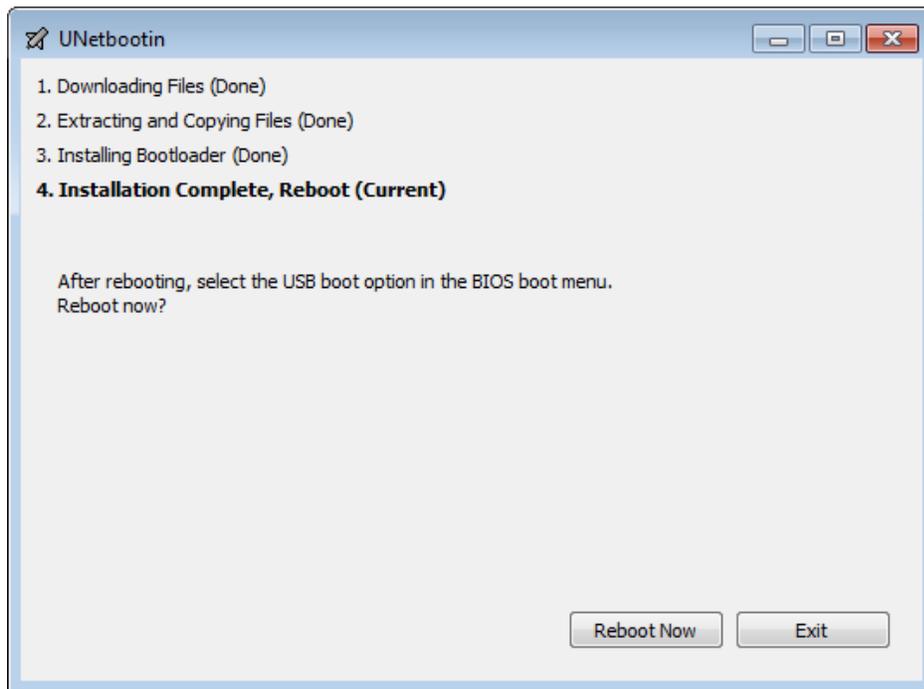
1. Windows ベースユーティリティを使って USB ストレージデバイスをフォーマットします。
2. UNetbootin を起動して **DiskImage** を選択します。



3. ISO の場所を選択します。
4. ISO の場所を選択したら、ドロップダウンメニューを使用して、インストーラーを作成する USB スティックのドライブ文字を選択します。
5. [OK] をクリックすると、インストーラー作成の進行状況が表示されます。



6. 作成が完了したら、【Exit】をクリックします。



UNetbootin プロセスが完了したら、デスクトップまたはラップトップのブートメニューから USB を選択すると、Engine がインストールされます。

## USBインストーラーを使用したEngineのインストール

USB ドライブを使用してインストールする場合は、次の点に考慮してください。

- コンピューターの BIOS 設定が、USB ベースのメディアから起動可能になっていることを確認します。
- コンピューターの起動シーケンスを設定すると、取り付けられている任意の USB デバイスから自動的に起動できます。BIOS>BOOT 設定セクションにあるマシンの起動順序で、USB ドライブをローカルディスクの上位に移動します。



USB ドライブがプライマリ起動デバイスになるように起動順序を変更した場合は、必ず次に再起動する前に、インストーラーが含まれた USB スティックを取り外してください。取り外さないと、Engine が再インストールされることがあります。

- USB デバイスの起動順序がローカルディスクより下位になっている場合や、指定されていない場合は、起動順序のメニューキー（通常は F12）を選択します。
- インストールプロセス中に、USB インストーラーにより、仮想マシンのインポートが要求されます。画面の指示に従って、インストールのこの部分を完了します。

USB インストーラーを使用して Engine をインストールするには、次の手順に従います。

1. コンピューターをシャットダウンします。
2. USB ドライブを使用可能なスロットに差し込みます。
3. コンピューターを再起動します。



USB ドライブから起動するには、起動順序を変更して、システムの起動時にローカルディスクが USB ドライブの下位になるようにします。F9/F12 キーまたは同等のキーを使用して、起動シーケンスを選択します。

4. エンドユーザーのライセンス契約を読み、同意します。
5. このインストールでドライブ全体を使用する場合は、タブキーを使用して [ディスク全体]（またはインストールを終了する場合は [停止]）を選択し、**Enter** キーを押します。
6. 上または下矢印キーを使用して、インストールに使用する言語（キーボード）を選択し、**Enter** キーを押します。
7. 以前の Engine の上にインストールする場合は、バージョンをアップグレードするか、すべてのユーザー情報と仮想マシンを含めて旧バージョンを置き換えるかを選択できます。
8. コンピューター名を入力して **Enter** キーを押し、次の画面に進みます。ここで登録した名前は、Synchronizer でこのコンピューターを識別するために使用されます。

手順に戻り、**Tab** キーを使用して **[戻る]** を強調表示し、**Enter** キーを押します。

9. コンピューターのアセットタグを入力し、**Enter** キーを押します。
10. 矢印キーを使用して、ディスク暗号化を使用するかどうかを選択し、**Enter** キーを押して次の画面に移動します。
11. 選択した内容とともに、ディスク全体へのインストールを続行する場合は、ディスク上のすべてのデータが消去されるという警告が表示されます。インストールの概要が正しい場合は、「**yes**」と入力して **Enter** キーを押し、Engine をインストールします。  
  
Engine がインストールされ、進行状況バーが表示されます。インストールが完了すると、コンピューターが再起動します。
12. 完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。不明な場合は、IT 管理者に問い合わせてください。
13. ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザー名とパスワードによって、選択した Synchronizer 上でこのユーザーが識別され、コンピューターが登録されます。

Engine をいったんインストールすると、必要に応じて自動更新を設定できます。ユーザーがログインすると、Synchronizer はそのユーザーに割り当てられた仮想マシンを送信します。

Engine のインストールが完了すると、Synchronizer が提供する Citrix 社の中央集中管理機能を使用して仮想マシンをエクスポートできるようになります。